あなたもチャレンジしませんか

～輝いている女性たち～

石　川　県

はじめに

男女共同参画社会の形成は、21 世紀の日本にとって最重要課題と位置付けられており、その実現のためには、女性の能力を十分に活かすことが求められています。

今回、石川県内の様々な分野で活躍している女性に取材させていただきました。地域や職場で、自分らしく生き生きとしている女性達です。

「何かを始めたい」という思いを抱えている女性が、希望を持ってチャレンジできるよう、チャレンジモデルを紹介する事例集を作成しました。この事例集から身近に感じるモデルを見つけることができ、チャレンジへのきっかけとなれば幸いです。

～石川県の女性のチャレンジ支援施策のご紹介～

チャレンジ・サイト〔石川県版〕

「チャレンジ・サイト〔石川県版〕」は、女性の社会参画（チャレンジ）を支援するためのポータルサイトです。

１０分野のチャレンジテーマごとに石川県内の支援情報を掲載しており、チャレンジに必要な情報を簡単・効率的に見つけることができます。

アドレス　http://www.pref.ishikawa.jp/jyoseicenter/challenge

女性再チャレンジ支援室

相談窓口　キャリアコンサルタントによる個別相談・情報提供

相談日　毎週月曜日～金曜日（除く祝日・12 月 31 日～１月４日を除く）
時　間　９：００～１８：００

セミナー開催　再チャレンジに役立つちょっとしたコツから具体的な対策まで多彩な内容で開催

◇ぷちセミナー
日　時：毎月 ４回１コース（平日　午前１０時～正午）
定　員：１０名程度 (予約制)
場　所：石川県女性センター（金沢市三社町 1-44）
☆託児サービス付き（先着順）　有料（一部負担：１コース 1,000 円）

◇就職準備ワンポイント・レッスン
日　時：随時開催
定　員：お一人からでも受け付けます。
場　所：女性再チャレンジ支援室　セミナーコーナー
☆お子様連れの方は、マザーズハローワーク金沢のキッズコーナーをご利用いただけます。

相談窓口 お問い合わせ	金沢市広坂２－１－１　石川県広坂庁舎１号館１階「石川県若者女性しごと情報館」内 「女性再チャレンジ支援室」TEL　０７６－２３１－３１４９（サイシュウショク） http://www.pref.ishikawa.jp/roudou/rechallenge/top.htm

「女性再チャレンジ支援室」は、内閣府のモデル事業により石川県が行っているサービスです。

目　次

地域で活躍中

石川県婦人団体協議会　会長	沖野 美智子 さん	2 頁
石川県くらしと環境を考える会　会長	千原　好美 さん	3 頁
ＤＶホットラインのと　事務局長	弘﨑　弘美 さん	4 頁
株式会社御祓川　チーフマネージャー	森山　奈美 さん	5 頁

ＮＰＯ法人を立ち上げて活躍中

ＮＰＯ法人　子ども館　代表	河岸 まさ子 さん	6 頁
ＮＰＯ法人　志ネット・石川　理事長	常光　利惠 さん	7 頁
ＮＰＯ法人　わくわくネット・はくい　理事長	轟　千恵子 さん	8 頁
ＮＰＯ法人　さわやかいいね金沢　代表	中野　啓子 さん	9 頁

起業して活躍中

株式会社パステルラボ　代表取締役社長	伊藤　数子 さん	10 頁
有限会社くぼちゃんパン　取締役	久保 いえみ さん	11 頁

男女共同参画社会の形成に向けて (データ資料)　12 頁

頼まれたことを一生懸命にやりとげる

石川県婦人団体協議会会長
沖野（おきの）　美智子（みちこ）さん

かほく市（旧高松町）出身。石川県立金沢第二高等女学校卒。1989年4月高松町婦人会会長、1993年4月河北郡婦人団体連絡協議会会長、2004年4月～かほく市女性協議会会長。1993年4月石川県婦人団体協議会　理事、2002年4月石川県婦人団体協議会会長。

■人生の思わぬ転機

専業主婦として過ごしてきた私の人生の後半になって、こんなことが正直あるとは思っていませんでした。高松町（現かほく市）で生まれ育ったけれども、夫の転勤について県外へいき、平成元年に故郷に戻ってきたとき、突然「高松町婦人会の初代会長になって欲しい。」と頼まれてそう感じました。

当時、高松町には２つ（高松地区・大海地区）の婦人会が活動しており、平成３年の石川国体までに統合することで話し合いが進んでいました。婦人会活動を知っていて、かつ現在どちらの婦人会の役員でもない女性を、と白羽の矢が立ったのです。私が30歳代の頃に婦人会長をしていた経験を買われての抜擢でした。

一度は断ったものの、夫に「しばらく離れていたから地域のことがわからない。でも、君が婦人会長になればいろんな地域の情報が入って来る。応援するからやってみたら。」と背中を押され、こうして声がかかることはとてもありがたいこと、と思い引き受けました。

■一生懸命すれば人はついてきてくれる

それまで仕事をしていたわけではないから、文書の作り方も、会議の司会をするにも何に注意すればいいかわからなかったけれども、そういうことは夫に教えてもらいながら一つずつ覚えました。それに、今も婦人会長を続けていられるのは、亡くなった夫にあの時やめろと言われなかったからかもしれない。そういう意味では意志を継いでいるのかとも思っています。

事務局の職員との打ち合わせ

婦人会長を続けてきて感じるのは、人に何かをお願いするときは、自分がまず一生懸命であることだと思います。真剣であれば人もついて来てくれます。

この多様化した時代、婦人会に何が求められているのか、どんな活動をすれば人にとって魅力的なものになるのか。それは活動をしていく上での永遠のテーマ。人との出会いがあり、目に見えないものが得られること、形ある幸せでなく、感じる幸せが得られること。それが婦人会活動の良さであると、新しく活動を始めた会員の方には話をしています。現在会員の高齢化が進んできており、もっと若い方たちに活動に参加していただくにはどんな工夫をすればいいのかと頭を悩ませる日々が続いています。

■上手なＰＲが大切

そんな中、能登半島地震が起き、県内だけでなく全地婦連の会員からも多くの義援金が県婦協に届けられました。

そうした義援金を被災地に届けるだけでなく、何か婦人会としてできることをしたいと考え、毎年女性センターで開催しているリーダー研修を輪島でしようということになりました。被災地で買い物をすることも復興支援の一つとして、自分達ができる形で能登を元気づけようとしたところ、65名ものリーダーが参加しました。

周りから見える活動をすることの大切さがわかりました。誰からもわかりやすい活動をすれば若い女性にも婦人会活動が魅力的になっていく、もちろん長く続けてきた会員にも励みになる。そのためにも婦人会活動をもっと上手にＰＲしていくことが当面の目標です。

忙しい婦人会活動の合間に娘さんたちと旅行に行き、ゆっくり話ができたことが楽しかったという沖野さん。女学生の頃はバスケットボールで国体や全日本大会に出場したこともあり、そうした経験が婦人会長としての活動にも生かされているそうです。

無駄な経験はないんだ、と教えられました。

壊されていく環境を少しでも良くしていくために

石川県くらしと環境を考える会会長
千原（ちはら）　好美（よしみ）さん

金沢市出身。金沢経済大学卒。（社法）共同通信退職。社会活動は 25 年近く続けてきている。石川県くらしと環境を考える会は活動を始めて 6 年目。
http://www.geocities.jp/oleijp/

■何かを始めてみたい

20 数年前、子育ても一段落し、何か地域活動をやりたいと思い始めた頃、名古屋から講師に来られた女性がお日様のように輝いていたことに衝撃を受け、いつかあんな女性に私もなりたいと思いました。でも名古屋は遠い。ならばもっと近くに「自分が目指したい」と思える人はいないか、そう思っていたとき、当時の金沢市校下婦人会連絡協議会で活動されていた一人の会長に出会い、この人だ、と直感しました。そうして身近で考え方を学びたいと思い、そばにいる努力をしました。

ある時、その会長は校下婦人会のボランティアでビンを回収し、収入を得るという活動を始めたのですが、様々な問題があり活動は数年で止める事になりました。環境を考えたせっかくの活動が終わってしまうことが残念でもあり、尊敬する女性が出来なかったことをなんとか繋いでみたい、という思いもあり、自分の住んでいる地区で行政と業者と協働できる回収システムを作り上げました。その活動が市のモデル地区として評価を受け、あちこちに分別収集に関する講演に呼ばれることも増え、改めて環境について勉強するきっかけになりました。

その頃、自宅の近くにゴルフ場の建設計画が出て来ました。既に県内にはいくつかのゴルフ場があるのになぜ必要なのか、環境への影響はどうなのか。そんな思いからゴルフ場建設反対運動を始めました。今になって思えば「自分がしなければ誰もしない。」という、うぬぼれた考えがあったかもしれません。結局この反対運動は頓挫しましたが、そこから「何かをするときは、同じ思いの仲間をつくることが必要だし、やってもどうにもならないこともある。」ということを学びました。

エコステーションまつりで参加者に説明

■与えられたフィールドにいるための努力を

破壊されていく環境を少しでも良くしていく事は今の大人の責任。一朝一夕に良くなるものでもないからこそ次世代にどう託していくかが活動のテーマです。環境問題はおかしいと感じたときには取り返しがつかないくらい破壊が進んでいるのだから、一人が 100 の活動をしても何も変わらないかもしれないけれど、100 人が 1 つの活動をすれば変わるかもしれない。そう信じて環境を良くするための仲間を広げていくために奔走する日々。自分から既成の「女性」という枠に閉じこもらず、自分の考えをわかりやすく表現できるように、与えられたフィールドに居続けるための勉強も欠かさず続けています。

結果的に私は環境という分野で、自分が目指した女性の姿を追いかけています。そんな尊敬できる人に出会えたことが一番の幸せかもしれません。たまたま出かけた講演会での出会い。そんな「人と出会える機会」を大切にして、自分の理想のイメージを持ち、そのイメージに近い人に出会えたら近づく努力をすればやりたいことは見つかるはず。迷わず始めてみたら何かおこるのではないかと思います。

ジョニー・デップ演じる海賊船長「ジャック・スパロウ」が大好きと言う千原さん。映画を見ることが好きで思い立ったら吉日とばかりに見に行くこともあるそうです。

興味の範囲を広く持つこと、それが自分の周りの世界を広げることにつながるようです。

お互いを尊重することの大切さを伝えていきたい

DV ホットラインのと 事務局長
弘﨑（ひろさき）　弘美（ひろみ）さん

福井県出身。福井県立福井商業高等学校卒。全国珠算教育連盟会員、珠算教育士。石川県男女共同参画推進員。アウェア　デートDV防止プログラムファシリテーター。DV講演等の活動を行っている。

ＤＶ：ドメスティック・バイオレンスの略。配偶者からの暴力を指す。

■能登にいても救えるように

子どもたちにそろばんを教えていますが、あるとき子どもたちの間にいじめがあることに気づきました。いじめる子もいじめられる子もいる、そんな子どもたちにどう接すればいいのか、どうすれば救えるのかと考えていたとき、家庭教育相談員養成講座を知り、受講しました。

講座を受講するため、金沢に頻繁に行くことになり、勉強できる環境の違いに驚くと同時にいろいろなことを吸収できることがうれしかった。そんな時、身近な女性が夫から暴力を受けていることを知りました。

金沢で多くの知識を得て相談先などを学んでいたので、何とか解決する手伝いが出来たけれども、そのまま能登に住んでいただけならきっと何も出来なかったという恐怖。どうすれば能登のこんな現状を改善できるのか悩みました。

■一人でも始めてみよう

そんなころ、県が実施したDV被害者支援のための派遣研修に参加することができました。派遣研修先で被害者を支援している方に「被害者を救えるように何かしたいんです。」と相談したところ、「とにかく一人でもやりたかったら始めてみなさい。やってみないと人は集まらないのよ。」と言われ、すぐその場で同行の県職員の方に「能登で電話相談がやりたい。」と訴えました。

それならば地元の役場の協力を得ることが早道との助言をもらい、早速町長に直接訴えました。「石川県家庭教育相談員連絡会」や「内浦家庭教育を考える会」のメンバー達のバックアップもあり、町長も協力できることはする、とおっしゃってくださいました。

こうして町の協力を得て、能登地区に「DVホットラインのと」が誕生しました。最初は知名度も低いためほとんど相談もなく、これでよかったのかと悩む日々。そんな時、「電話の向こうに悩みを聞いてくれる誰かがいることが大切なのよ。」と励まされました。相談先が「ある」のと「ない」のでは大きな差。続けることの大切さを教えられました。

スタッフが揃って研修会の準備

■女性のさまざまな悩みに答えられるように

DV被害相談が能登でも出来るようにと始めたけれども、実際の相談はDVだけでなく、子育てについてなど家庭の中の問題もあります。DVに限定せず、女性の様々な相談にのれるところにしていきたい。そんな思いが通じたのか少しずつ相談件数も増えてきましたし、一度相談してきた女性が続けて相談してくれるなど相談先として頼りにされていることが励みになっています。

相談員の「私達は弘﨑さんの本気に共感して協力を申し出たの。ただ頼まれたのなら続けられないわ。」という力強い後押しや、町の職員を始め、こうした相談室に関わってくださる皆さんのおかげで続けていけることに感謝の日々です。

今は毎週火曜日の10時から２時までという短い時間しか相談を受けていないけれど、相談員を増やし、いつでも相談できる相談室にしていくことが目標です。また、最近問題となっているデートDV(交際中の暴力)について、若い人にも知ってもらうことで暴力をなくしていきたい。お互いに相手を尊重することの大切さを伝えていく活動をしていきたいと思っています。

町役場の職員、地元警察署の警察官、金沢の女性相談支援センターの職員。こうした相談室に関わってくれている方々のバックアップのもと、能登でも相談できる窓口があることをもっとＰＲしていきたいそうです。

目標に向かっていくための努力は惜しまない。そんな行動力に脱帽です。

まちににぎわいを生み出すために

株式会社御祓川 チーフマネージャー
森山（もりやま）　奈美（なみ）さん

七尾市出身。横浜市の大学卒業後、計画情報研究所に勤務。
1999 年地元七尾市に株式会社御祓川を設立。

■生まれ育った街ににぎわいをつくりたい

まちづくりをしたくて大学に進み、金沢のコンサルタント会社でしばらく経験を積んできました。七尾に戻ってきたときには七尾市の中心市街地活性化事業として、七尾駅前にショッピングセンターと七尾港に能登食祭市場が創られていた。拠点があるなら、それをつないで人が流れる線を作りたい。その線上にあったのは全国一のドブ川として知られた御祓川でした。

それならば、今私が取り組むことはこの川を中心としよう、川を浄化し、人が集まる場所にしよう。そのために今、必要なことはまちづくりをするための組織であると考え、能登食祭市場設立に携わった七尾経済界のメンバーに「まちづくりをするための会社をつくりたい。」と企画を持ちかけたところ、賛同が得られ、株式会社御祓川を設立しました。

■主体となって行動する

まちづくりをテーマとする以上、さまざまな点で行政とのかかわりは切り離せません。御祓川にかかる泰平橋が完成したとき、地元から「完成式典をしよう。」という声があがり、施工者である県と市に掛け合ったけれども式典はしないという回答。ならば自分達でしようと地元商店会や施工に関わった業者と力を合わせて実施し、成功裏に終わりました。

泰平橋のたもとで

このように自分が企画したことを実践していける、主体となって行動した結果が見えることはとてもうれしいことです。行政に頼むことと自分達がすることがあるはず。自治の原点に戻ってまちづくりを進めていきたいと思っています。

主体的に動くためにも会社という組織にしたことは私にとって動きやすい方法でした。利益を追求する会社として、にぎわい創出の一環である店舗の経営やテナント運営などを行う一方で、市民活動組織として「川への祈り実行委員会」を設立し、クレソンによる水質浄化実験や川をきれいにするためのキャンペーンなどを行っています。

最近は、特にイベントを行わなくても魚釣りなどに子どもたちが訪れるようになった御祓川。少しずつ浄化も進んでいますが、せっかく育てているクレソンが大雨で流されたり、浄化施設に水をくみ上げるために取り付けた柵が誤解により壊されたこともあります。川を浄化する試みは試行錯誤しながら少しずつがんばっています。

■能登半島全体のまちづくり

３月に突然襲ってきた能登半島地震。復興に向けて進んでいますが、能登のまちづくりを側面支援できるようなネットワークをつくりたいと思っています。それぞれの地区にグループはあるけれども、お互いをつなぐような支援システムがない。運営資金の問題もある。復興のためだけでなく、もっと恒常的に使える基金のようなものがつくれないか、と考えています。

男だから、女だからではなく、自分がやりたいこと、与えられた役割を忠実に果たすこと。思った協力が得られなくても「そんなもの」としてあるがままを受け入れていけば、結果は出せると思っています。

最近、ゴスペル・コーラス・ユニット VOX OF　JOY のメンバーとしても活躍されている森山さん。だんだんと趣味の域を超え始めているそうです。他にも体力維持のためにジムにも通い始めたとか。

とても素敵な歌声を聞かせていただきました。

一期一会の出会いを大切にしたい

NPO 法人子ども館 代表
河岸（かわぎし）　まさ子（こ）さん

石川県珠洲市出身。石川県立保育専門学園卒。
金沢市内　社会福祉法人　富樫中央保育園、第一善隣館保育所に勤務。
URL　http：// kosodate-web.com ／ kodomokan

■保育という仕事が好きだから

川北町の新興住宅街の一角に、ピンクの外壁のかわいらしい家が建っています。そこが「子ども館」。少人数での家庭的な保育サービスを、と始めた子育てサポートセンターです。以前は、民間保育所で主任保育士として 25 年余勤務、施設の厳しい運営状況から突然の早期退職の勧告を受けました。まだ、保育に未練もあり、不完全燃焼！この仕事が好きだったんです。

退職した後、川北町の保育所から誘われ数年間勤務、この町ののんびりした環境に惚れて、この土地に退職金の一部を当て、一軒家を購入しました。近所のお母さんから「子どもを預かって欲しい」と頼まれ、ボランティアで一時預かりをすることが何度かあり，認可保育所では対応できない休日、夜間等、ちょっとした時に気軽に利用できる保育の需要があることに気づき、この場を活用して小規模保育サービスを仲間達と始めました。

■NPO 法人としての再スタート

活動を始めて、いろいろな苦労や悩みもあり、「もうやめよう。」と思ったことは度々ありました。そんなときに友人から「NPO 法人にすれば運営もやりやすくなるのでは。」との助言を受け、一からの勉強。

たくさんの方々に教えていただきながら四苦八苦、何とかスタートしたものの必要な書類の作成から、専門機関への対応等、法人としての解らない事だらけでした。何度も「もういい、やめた」と思いながらも、これまでの仲間や夫の協力により NPO 法人としての認証を受けることができました。

今となっては自分自身がこれまでにない社会的な見識も多少身につき、活動範囲も広まり、NPO 法人になってよかった、もっと早くに法人化すればよかった、と思っています。法人として認められたことで、多くの人から更なる信頼、知名度の向上にもつながった気がします。

徐々に成果が見られ、旅行中の方が「ゆっくりと食事をとりたいので、その間だけ子どもをお願いします。」「名古屋から行きます、先端大の試験受ける時間だけ、、、」等々同じ子どもたちを集団で保育するだけでない、一期一会の保育の機会がたくさん与えられたことが、これまでにない保育のあり方として違う楽しみの一つでもあります。

保育中の子ども達との楽しい時間

■地域の交流サロンに

子どもを預けにこられるお母さん方々のみにとどまらず、ママ友だちの交流の場にしていきたい！１人でも多くの親御さん、また、子ども館から成長した子どもたちが「こんにちは」と遊びに来てくれるような居場所にすることがこれからの目標です。

保育所を退職したときには考えもしなかったけれど、スタッフにも恵まれ、今は早期退職を味方にしてよかったと感じています。保育という仕事を続けながらすきまを縫って、いろんなことに興味を持って、やりたいことにチャレンジすること、それが長い人生を楽しんで生きる一つの方法だと思っていますので、このところちょっぴりご無沙汰しているアートフラワーやリズムダンスなども好きで続けています。

最近は、必要に迫られて覚えたパソコンやデジカメがマイブーム。メールでドイツにいる息子さんと連絡をとりあっているそうです。他にも友人とおいしいものを食べにいくのが楽しみだとか。本当に人が大好きなんだと感じました。

しっかり近隣のおいしいお店を教えていただきました。

自分の家にいるような認知症ケアをしていきたい

NPO 法人志ネット・石川　理事長
常光（じょうこう）　利恵（としえ）さん

中能登町（旧鹿西町）出身。県立七尾高等学校卒業後、一般企業で 20 年勤務。金沢福祉専門学校で福祉を学び、老人福祉の世界へ。金沢福祉専門学校講師。高齢社会をよくする女性の会、認知症ケア学会、介護福祉学会在籍。

■認知症になってもなじみの場所でなじみの人々と普通の暮らしを

認知症の人が生きやすいたまり場を、今まで暮らしていたなじみの所につくり、地域に密着した介護サービスをしようと NPO 法人を平成１６年に設立。その中心事業が住宅街の一軒家で行っているミニデイサービス「菜の花のおうち」です。

40 歳過ぎて金沢福祉専門学校に学び、介護福祉士の資格を取得。特別養護老人ホームや在宅介護支援センターで相談員として働きながら社会福祉士を取得。我ながら勉強家(笑)。勤め始めた頃は 30 人の小さな特養ホームで、「普通の暮らしをちょっと大きめの家族のように」とやってきたが、施設規模が大きくなるにつれ「自分の親を入れられるか」という自問に答えられなくなりました。そして平成９年に退職し、介護職人生のパートナーとなる友と二人で「菜の花のおうち」を開設。

開設に向けた準備の中で「地域社会での形になりにくい女性の思い」を強く実感。ちょうどその時、松任市議会議員選挙があり、『女が地域を変える』などと啖呵を切り、48 歳で思いがけぬ世界で生きることに。選挙は２勝１敗、三度目の挑戦は実らず、認知症ケアにどっぷりつかる日々に戻ってきました。

認知症となっても今の暮らしを続けたいという思いに応える地域と、その拠点になるミニデイサービスは、誰もが老いる中での必需品。正しく理解するための認知症理解講座で地域の人と心をつなげ、ケアも分かち合うことで高齢期の尊厳を守る意識が定着していくと考えています。

菜の花のおうちでほっと一息

■女性が女性を支え、助けてくれた

周りの多くの女性に助けられてきたという思いがじわじわと湧いてきます。寿退社は当たり前、「エッ！子どもを預けてまで働くの？」という時代の少数派でしたから、「お願いします。ありがとう。」の連呼(笑)で、よく助けてもらった、やってきたと思います。一番の応援団は母でした。いつも働き続ける背中を押してくれました。それから延長保育を引き受けてもらった保育所の先生、職場の同僚、近所のおばさん、三人の娘は本当に沢山の善意の中で育ちました。

今、菜の花のおうちでも、多くの女性ボランティアに支えられています。要介護高齢者の多くは女性です。その女の老いを支えずして、との内なる啖呵を切りつつやっています。これからは、退職し地域人として還ってくる男性に関わってもらえるようになれば違う地平が見えてくると期待しています。

■継続していくために

NPO 法人になって３年、今の心境は石の上にもあと３年の気分です。介護の社会的評価がもっと高まって欲しいと思います。正直なところ、きちんとした給与を渡せていない経営状態です。優れた介護の働きに見合った、生活できる給与を支払えるように頑張ります。

若い人たちが職場の一つとして選択できる、働き甲斐のある法人にしていきます。今年も我が母校、金沢福祉専門学校の後輩を含め、ボランティアや実習に福祉を学ぶ学生がやってきます。菜の花のおうちでの出会いが、彼らを励ます様でありたいものです。

お話を伺っている間にも思いついたことは即メモをされていました。そんな常光さんが最近凝っているのは落語や小話だそうです。「笑い」が活動的な日々のエネルギーの元になっているようです。簡単な小話をいくつか教えていただきました。

市民活動の灯火をつなげていきたい

NPO法人わくわくネット・はくい　理事長
轟（とどろき）　千栄子（ちえこ）さん

羽咋市出身。現在、羽咋市内で医院経営。ＮＰＯ法人わくわくネット・はくい設立に当初から関わり、副理事長から理事長に。レディースネットワークインはくい、ＣＡＰのと代表。羽咋市男女共同参画推進委員会委員長。

■女性のやる気を活かした地域づくりを

開業医として夫と外来をこなすのが精一杯だった10年前、羽咋青年会議所が主催していた羽咋女子大学公開講座の講師を頼まれ、それが自分の住んでいる羽咋という地域をどうしたいのかと考えるきっかけになりました。その後、公開講座の実施は「レディースネットワークインはくい」が引き継ぎましたが、その運営に関わることで多くの講師の話を聞く機会に恵まれ、私は高齢者や子ども達が元気な町にしたいと思うようになりました。

そんな中、市長が女性の意見を聞く場として市が設けた「女性委員会」の委員長を務める事になり、参加していた女性から「私達は何かやりたい、社会の役に立ちたいと思っている。」と聞き、市長にその話をしたところ、女性たちがそういう思いを持っていることにとても驚いていました。その後、羽咋市で男女が共に輝くまちづくり懇話会も設立され、委員長として参加しました。その頃は「男女共同参画なら少し意識改革すればいいのだろう。」と簡単に考えていたところ、男性委員の「女に何が任せられるんだ。」という意見を聞いて、ショックを受けました。女性達の「何かやりたい」という思いを活かすにはどうしたらいいのかと考えました。

■市民活動を応援するために

役に立ちたいという思いを持つ市民のために、羽咋市は市民活動支援センターを設立しました。それと同時に私は市民活動を応援するNPO法人を創るための準備委員会の委員長となり、法人づくりに奔走しました。NPO法人をつくることになかなか理解が得られず困ったこともありましたが、平成16年にNPO法人わくわくネット・はくいを設立しました。

NPO法人は市文化会館の運営の一部を委託されるなど少しずつ活動は広がってきたものの、まだまだ認知されたとは言いがたい現状。市のセンターがあるからNPOはいらないと言われることもありますが、目的が達成されていないからこそ、市民活動の灯火は絶やすわけにはいかないと思っています。誰かのために何かをしたいという女性たちの思いを活かすためにも、何かをしたいと思ったときの選択肢の一つとするためにもNPO活動は必要であることを伝えつづけること、特に行政に必要性を認めてもらうことが大切だと感じています。

■市民のやる気を認めて欲しい

羽咋女子大学公開講座の始めの頃は「新聞を読まない女が勉強しても何が出来る。」そう男性に言われたこともありました。それでも学んだことは直接でなくても還ってくるもの、そう伝え続けた成果が少しずつ現れてきているようです。受講者からは「夫が今日は女子大学の日だろ、早く行けば。と言ってくれるようになりました。」という話も聞きます。

市民がすべきことを市民ができるようにすることが行政のサービスのひとつでもあると思っています。私が医師であることで行政が耳を傾けてくれると言うなら、そのつなぎ目になって市民の声を伝えていきたい。そうすることでわくわくネットが地域に根ざしたものになっていって欲しいと思っています。

また、私は能登地区での子ども達の虐待を防ぐため、能登にCAP(子どもへの暴力抑止プログラム)を根付かせ、子どもたちが輝いて元気に成長できる地域にしていくことも目指しています。

“CAPのと”のメンバーと段取りの確認

昨年からフラメンコを習い始めたけれども、毎回レッスンの最後30分程しか受けられないそうです。短いけれど自分のための時間であり、それが気分転換にもなっているそうです。

時間がないから出来ないではなく時間は自分で作る、そう教えられました。

子ども、障害者、高齢者の区分のない福祉サービスを

NPO法人さわやかいいね金沢　代表
中野（なかの）　啓子（けいこ）さん

金沢市出身。北陸学院高等部英語科卒。2001年3月　任意団体　ふれあいの場　いいね金沢設立。2002年3月　財団法人さわやか福祉財団　インストラクター委嘱。中野整体院閉院後の2002年10月　NPO法人として認証。
http://sawayakaiine.oruke.net/

お互いに助け合える社会にしたい

「困ったときはお互いさま」。これがさわやかいいね金沢の活動の理念であり、たすけあい事業のほか介護保険事業所としての活動を行っています。富山型デイサービス「このゆびとーまれ」の惣万さんの考え方に共感し、当時受講していた講座の仲間達に声をかけ、子ども、障害者、高齢者の区分のない福祉サービスの提供を始めました。

始めた当初は家族や地域の理解も少なかったのですが、早朝や夜間、お正月などに子どもを預かるという活動は当時珍しかったので、一時保育のニーズは多かったです。

活動を続けながら感じたのは「気持ちが通じ合えば長く続けられる。」ということです。利用者さんにとって一番いい方法を考える。そして、お互いにどうすれば良くなるかという意見を言い合うことは大切だと思います。

困ったときはお互いさまネットワークを作りたい

私達がやっている家事援助や外出援助など介護保険では出来ないサービスができる団体が各地にあればネットワークをつくり、もっと充実したサービスが出来ると思っています。こんなこともありました。愛知県に住む方から県の社会福祉協議会に電話があり、「祖父が金沢に住んでいるが、だんだん愛犬の散歩が難しくなっている。何かいいサービスはありませんか」。介護保険では対応できないこうした相談を、社会福祉協議会は私のところを紹介してくださいました。もちろんすぐに受けましたが、こうした支えあいの心を広げていきたい。最近、当初反対していた娘が活動に興味を示しており、ここから活動が広がっていくことを期待しています。

一人で無理なことも協力すればできる

娘の家に遊びに行くような感覚で集まれる宅老所を作るなど、自分が欲しかったサービスを作りたい。一人ではできなくても、みんなで協力して出来ることをつなぎ合わせていけば団体としてきちんとしたサービスができると思います。そのためにもNPO法人マップをつくり、今まで断らざるを得なかった依頼も、お互いのネットワークで受けていけるようにするのも今後の目標です。

活動を始めた頃は、身体を壊して入院し、仕事も辞めた時であり、正直お金もなくどうしようか迷ったこともあります。それでもやりたい気持ちが強く、家族を説得し「3年間やってダメなら辞める。」という約束をして始めました。その後介護保険制度が始まり、事業所として登録したことで少しずつ軌道に乗り、続けてこられました。非営利なので、儲けることが目的ではないけれど、活動を長く続けるためには一定の収入を確保することも大事なことだと思います。

ヘルパーの方たちとの打ち合わせも綿密に

最近、コミュニティ菜園での野菜作りが楽しいという中野さん。採れた食材は事務所で月1回行う一品持ちよりの誰でも参加できる「居酒屋」の時、みんなで食べているそうです。スタッフだけでなく他団体の人や知り合いの知り合いといった人の和が広がる時間だそうです。

大切なのは人とのつながりであり、信頼されることだと教えられました。

唯一の企画をつくるための「研究室」を

株式会社パステルラボ　代表取締役社長
伊藤（いとう）　数子（かずこ）さん

新潟県出身。新潟大学工学部卒。映像制作会社勤務を経て 1991 年パステルラボ設立。2005 年 NPO 法人 STAND 設立。2005 年金沢市 IT ビジネス大賞受賞。2006 年総務省 u-Japan ベストプラクティス、日経地域情報化大賞 CAN フォーラム賞受賞。

■最初から関わりたくてプランナーに

私は 1991 年に「株式会社パステルラボ」を設立しましたが、設立当初は名刺を渡しても「パステルラボ」とはすんなり呼んでもらえませんでした。知名度のなさ、実績のない新参者であること。いろいろ違和感があったんでしょう、あからさまに拒否反応がありました。だからこそ、将来スタッフが名刺を出したとき、そんな反応がないような会社にしたいと思ったことがあります。

もともとは映像製作会社に勤務していたのですが、例えば商品をアピールするためには映像よりももっといい方法があるのではないかと思ったんです。その商品ができるまでにどのようなプロセスを経てきているのか、最良の表現方法は何かを考えたとき、より根っこの部分に関わっていきたい、企業の目指すものを知りたいという思いが強くなりました。商品が生まれる前から関われる企画会社を作ろう、と思いました。

実績のない私達に任せてもらえる、依頼してくれたクライアントのほうが本当はベンチャーだと思っています。そうして依頼を完遂したときに「ありがとう！」と言ってもらえることが、仕事をしていて一番うれしいことです。

会社名の「パステル」は、画材の名前ですが、混ぜ合わせて使うことが多く、二度と同じ色は作れないというもので、企画もその内容に応じて同じ物はひとつとしてない、唯一のものを作っていくための研究室 (ラボ)、という意味で名付けました。

■何の縁もない土地で

親戚とか友人は意識や努力をしなくても必然的に信頼関係で結ばれます。でも、一旦社会に出ると、自然体でいてもそういう人はできない。仕事ってかかわる人同士が議論したり力を合わせたりして進めるもの。いろんなことがあって終わったとき、それまで縁もゆかりもなかった人との間に深い信頼関係を築くことができる。仕事ってなんて素晴らしいものだろう、と思います。学校を卒業後、何の縁もなかった金沢で就職し、結果として起業することになりました。

■障害者の活動支援を

誰もが一生健康でいられるわけではない、だからこそ年齢、障害、性別の区別なくすべての人が持てる力を発揮し、誇りある自立ができ、ともに豊かに暮らせる社会を実現したい。そのためにはお互いに尊敬を持ったコミュニケーションが必要、と「ユニバーサルコミュニケーション」という考え方に則った社会活動をするため、2005 年会社内にＮＰＯ法人を設立しました。

大変なことは多いほうがいい、それがクリアできたときに楽しみに変わります。課題や夢はクリアしたと思ったらまた生まれるもの。そんな夢のひとつがインターネット上に障害者スポーツ向けの総合サイトをつくり、障害者スポーツ大会の開催支援をすること。この夢はかないました。障害者の活動支援を含めたユニバーサルコミュニケーションの普及は今のところ私のライフワークです。

パソコンは欠かせないツール

「嫌なことを先送りすればするほど辛い時間が長くなるから、嫌なことはさっさと片付けるの。」仕事の場面だけでなく、日常生活にも言える、きっと誰もがわかっているけどなかなかできないことをさらりと実践している伊藤さん。

お話を伺いながら実践できないわが身を振り返る時間でした。

おいしくて安心できるパンを届けたい

㈲くぼちゃんパン　取締役
久保（くぼ）　いえみさん

鹿児島県出身。愛知県立稲沢東高等学校卒。平成 14 年「みるくやさんのくぼちゃんパン」開業。平成 17 年に有限会社化。現在、石川県農業振興協議会副会長。

■おいしい牛乳のよさをわかって欲しい

県中核農家連絡協議会に入り、他のがんばっている農家の女性達に触発され、自分も何かしたい、自家製のおいしい牛乳を使って出来ることは何だろう。そう考えたときに、日頃から家族のために焼いていたパンはどうだろうと思いました。反対されることを覚悟で夫や牧場の会計士に「パン屋を始めようと思うんだけど」と相談を持ちかけたところ、あっさりと「いいんじゃない。」といわれ、パン屋への道が始まりました。

素人のパン屋。経験もないし、何を準備すればいいのかもわからない状態。手探りで動き始めたときに、多くの知り合いに助けられました。レシピのアイディアをくれる人、食べた感想をくれる人、パンを入れる袋のデザインをしてくれる人。一人でやっているからみんなが心配して助けてくれる。アドバイスをくれる。私はめぐまれている、そう思いました。

店舗をもたず、注文を受けて配達をしているだけで、特に宣伝もしていない。ある時、息子が「今日、学校で『久保んちのメロンパンがおいしいって聞いたけど、どこで買える？』って聞かれたよ。」と言いました。思いがけない「おいしい」の一言がとてもうれしかったです。

一人だからの悩みもあります。出かけているときは誰もパンを焼けないこと。その悩みも次男のパン作りの修行が終われば解消されますし、夢もひろがります。しぼりたての牛乳と焼きたてのパンを使って何か出来ないか。カフェのように味わってもらうスペースが作れたらいいね、と息子と語り合っています。

■有限会社「くぼちゃんパン」の設立

最初から会社にしようと考えていたわけでもないし、設備なども準備万端だったわけではなく、今の自分が出来ることを考え、その範囲から始めることで続けられました。一人で出来る範囲から始めたパン屋を平成 17 年に有限会社として登記しました。今ではもともと家業として行っていた牧場経営も会社の一部としています。社長は夫ですし、私は取締役になるのですが、社長ではない取締役というポストが性分にあっているし、何より動きやすいのでこれでいいと思っています。実際のところパン屋は私で、牧場は夫と長男がやっています。

■安心して食べられるものを

一日のほとんどをパンを焼くことに費やしていますが、その合間に家庭菜園で野菜をつくることが最近楽しくて、そうして出来た無農薬のたまねぎやにんじんなどは惣菜パンに使っています。安心して食べられる安全なものを作ることが普通の主婦だった私にとって使命のような気もしています。子どもたちみんなにも安心して食べてもらいたいと思います。

安心して食べてもらえるパンを作っています

今では看板商品となったメロンパン。何度も何度も失敗して今の味になったそうです。失敗は成功の元。ミルクやさんのくぼちゃんパンはそんな日々の工夫から生まれています。

失敗してもあきらめない久保さんの情熱に頭が下がります。

男女共同参画社会の形成に向けて

政治・経済活動への女性の参画指数の国際比較

UNDP(国連開発計画)によると、我が国は「長寿」「教育」「所得」の充足度を示すHDIでは177か国中7位ですが、政治及び経済活動への女性の参画を示すGEMでは75か国中42位と大きく落ち込んでいます。

我が国は、人間開発の達成度では実績を上げていますが、女性が政治経済活動に参画する機会が十分でないといえます。

順位	国名	HDI値
1	ノルウェー	0.965
2	アイスランド	0.960
3	オーストラリア	0.957
4	アイルランド	0.956
5	スウェーデン	0.951
6	カナダ	0.950
7	日　本	0.949
8	アメリカ	0.948
9	スイス	0.947
10	オランダ	0.947
40	エストニア	0.858
41	リトアニア	0.857
42	スロバキア	0.856
43	ウルグアイ	0.851
44	クロアチア	0.846

順位	国名	GEM値
1	ノルウェー	0.932
2	スウェーデン	0.883
3	アイスランド	0.866
4	デンマーク	0.861
5	ベルギー	0.855
6	フィンランド	0.853
7	オランダ	0.844
8	オーストラリア	0.833
9	ドイツ	0.816
10	オーストリア	0.815
40	パナマ	0.568
41	ハンガリー	0.560
42	日　本	0.557
43	マケドニア	0.554
44	モルドバ	0.544

※　HDI　人間開発指数（Human　Development　Index）

「長寿を全うできる健康的な生活」、「教育」及び「人間らしい生活」という人間開発の３つの側面を測定した指数。具体的には、平均寿命、教育水準(成人識字率及び就学率)、調整済み１人当たり国民所得を用いて算出している。

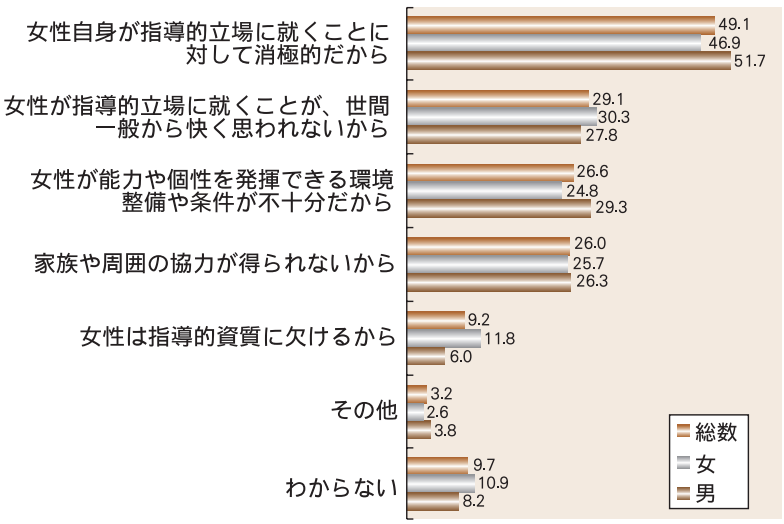
※　GEM　ジェンダー・エンパワーメント指数（Gender　Empowerment　Measure）

女性が政治及び経済活動に参加し、意思決定に参加できているかどうかを測るもの。HDIが人間開発の達成度に焦点を当てているのに対して、GEMは能力を活用する機会に焦点を当てている。

具体的には、国会議員に占める女性の割合、専門職・技術職に占める女性割合、管理職に占める女性割合及び男女の推定所得を用いて算出している。

指導的立場に女性が少ない理由は

平成17年度に行った「男女共同参画に関する県民意識調査」で、地域における活動において、町内会長やPTA会長などの指導的立場に就く女性が少ない理由を聞いたところ、「女性自身が指導的な立場に就くことに対して消極的だから」が女性46.9%、男性51.7%で男女とも最も多い理由でした。女性の意見としては「女性が指導的立場に就くことが、世間一般から快く思われないから」が30.3%で2番目に多く、男性の意見としては「女性が能力や個性を発揮できる環境整備や条件が不十分だから」が29.3%で2番目に多かった意見です。



いしかわ男女共同参画プラン

県では、男女共同参画推進に関する基本的な取り組みの方向と具体的な施策を示す計画として「いしかわ男女共同参画プラン」を平成 19 年 3 月に改定しました。このプランでは、計画期間を平成 22 年度までとし、男女共同参画の視点が活かされた施策を進めるための基本目標として次の５つを掲げています。

Ⅰ　男女共同参画社会づくりに向けた意識の改革
Ⅱ　方針の立案及び決定過程への女性の参画の拡大
Ⅲ　職場・家庭・地域における男女共同参画の実現
Ⅳ　女性の人権が推進・擁護される社会の形成
Ⅴ　国際社会を視野に入れた男女共同参画の推進

そしてプランの達成度を確認するための指標として、次の数値目標を掲げています。

・「男女共同参画社会」という用語の周知度	１００％
・「いしかわ男女共同参画プラン」の周知度	１００％
・県の審議会等委員のうち女性委員の占める割合	３５％
・女性委員のいない審議会等の数	0
・男女共同参画を進めるための計画の策定市町の割合	１００％
・配偶者等からの暴力被害者の相談・保護を行う機関「女性相談支援センター」の周知度	１００％

この期待される数値を実現するために、女性が社会で活躍することに積極的に挑戦 (チャレンジ) できるよう、３つのチャレンジを推進し、女性の多様な能力の活用により男女がともに生き生きと暮らせる社会の実現に努めていきます。

３つのチャレンジ

・縦へのチャレンジ：方針の立案及び決定過程に参画し活躍することを目指す。
・横へのチャレンジ：女性が少なかった分野に新たな活動の場を広げる。
・再チャレンジ　　：いったん就業を中断した女性が再就職等を目指す。

編集後記

きっと、多くの女性がいろいろなきっかけで「何かをしたい」と思っているのではないかと思います。子育てが一段楽したから、仕事以外にも何かを始めたい、今まで続けてきた趣味を活かしたい・・・・

女性のチャレンジを応援するため、県内で活躍されている素敵な女性１０人のお話を聞かせていただいて感じたのは、共通していることがあるということでした。

何かを始めるときは仲間をつくること、そのためには自分が真剣に取り組むこと、目の前にあることから始めること、そして始めたら続けていくこと。一番難しいのがこの「続けること」ではないかと感じます。今回、お話を聞かせていただいた皆様は少しずつ変化をしながら続けていらっしゃいました。もうやめよう、なんで続けているのだろう、ふと心をよぎったことはあったのでしょうが、そんな迷いは見せない心の強さに加えて、支えてくれる家族や仲間の存在もあったのだろうと思います。

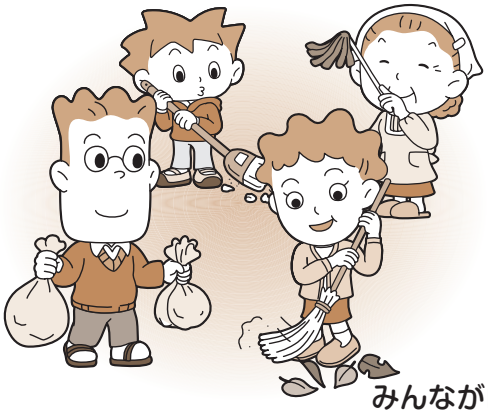
最後に、取材に快く応じてくださいました皆様に心から感謝申し上げます。そして女性がチャレンジすることが特別ではない、あたりまえの社会になることを願っています。

男女共同参画社会

こんな社会をめざします

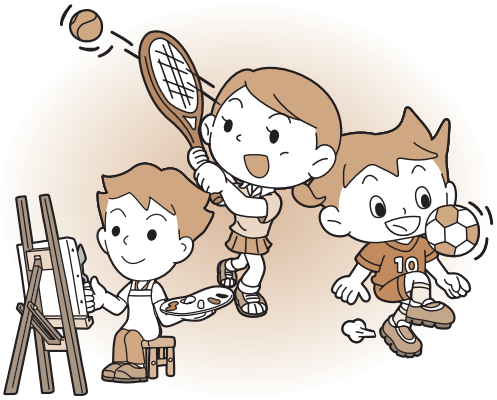
家庭では・・・

家庭と仕事・地域活動のバランスがとれ、みんなが家族の一員としての責任を持ちながら、家事などを分担し、喜びも苦労も分かち合い支えあっています。



学校では・・・・

個人の主体性に基づく進路指導が行われており、児童生徒一人ひとりが自分の夢や希望に向かってがんばっています。



みんなが自分らしい生き方を選択し、
生き生きと充実した生活を送ることのできる

“ 希望の持てる社会 ”

職場では・・・

家庭や地域生活とバランスのとれた労働時間で、一人ひとりの個性や能力・意欲が活かされ、男女共にゆとりと充実感を持って働いています。

地域では・・・

地域のみんなの助け合いや、社会サービスによって、子育て中の家庭や高齢者家庭の家族が安心して暮らしています。

石川県県民文化局男女共同参画課

〒920-8580　石川県金沢市鞍月１丁目１番地
TEL　076-225-1378／FAX　076-225-1374
E-mail　danjo@pref.ishikawa.lg.jp
http://www.pref.ishikawa.jp/danjo/

発行年月　平成19年11月

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

あなたもチャレンジしませんか

～輝いている女性たち～

石　川　県